芭蕉翁文集

一

芭蕉ヲ移ス辞
僧専吟餞別の辞
閉関説
月見賦
幻住庵の記
紙衾の記
伊賀新大仏記

柴門辞
既望賦
烘掃説
十八楼の記
嵯峨日記
翁朱印

序

昔貞徳宗因乃時分ひまては紫民
清氏乃雅言ニ可笑言を加へし
ものを俳諧文章とせしハ連歌
の俳諧より出て新古姿情のたひ
翁へし中比在芭蕉庵の翁古風の
称ありしを翁彼しのひてより文章も

雲英

又一捨と建て柳漢の細を大成
その秀しるものの門人論集ふ
いたるに人もなく都鄙の庶かく
ものがたりは水上亭柳境法象
小求究寡小教十篇を合て芭蕉
翁文集と題せ[illegible]つに
元の[illegible]ん[illegible]ふ同志の人々に

見せもやせしもの一書を見ぬふ
ゆゑ[illegible]て深志を祈漢して
雪中庵蓼太筆を空廣橋ふ
[illegible]

祖翁生涯の句選ばれ又拾遺あり
附合集あり寂ふ考む句は他の
一道を開き文ふ卿俳を加やせて
今形好古の節ふ[illegible]
諸集中行[illegible]て流中の
ふ[illegible]と[illegible]清長の類は[illegible]
[illegible]れ[illegible]ふ後[illegible]て摘写しかの

ほうらくて一時発熱
芭蕉の文集なりの事
もうく雪中蓑師の庵を見て帰り
家の書籍小せんと題を述作する

水上帝　　杌境

寶暦辛巳秋

芭蕉翁文集巻之

芭蕉を移す辞　　[illegible]

菊を東篱小ひらく竹を南窓乃君とする
杜甫ハ行日れ是非にて世塵小帝ひらる
荷葉ハ年地まきす水清くこれを
花さうれいうれの年小ゆ柄を心境小移す
時ら紙一枚を植ゆ風雲芭蕉乃心
少や叶ひらん教様蓑を伺へ[illegible]

[illegible]て庵をせそ[illegible]蕉[illegible]雨降かゝる
中なる人嵯峨[illegible]の名[illegible]田[illegible]
門人ともに[illegible]して[illegible]草をうゝ根をつゝ
ゝく[illegible]小[illegible]遊[illegible]事○小[illegible]
下を[illegible]みちゝくの行[illegible]ひ[illegible]て芭蕉
庵をて小[illegible]んとすきをかゝ[illegible]の溝
小[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]小霜の
夜ひ風のかいひなゝ[illegible]て[illegible]

[illegible]乃[illegible]みの書[illegible]
[illegible]ゝ小[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝの[illegible]芭蕉の
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]芭蕉[illegible]
[illegible]芭蕉[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

沈まんとして四方に遠く雲の
草庵はるかに〳〵枝の梢と清き水
剪り竹の枝折戸安〳〵と蔦葛
ちらし南小風吹き来る沢樓
こなたに地を富まず財して山門東に
進くなり　浙江の潮満ちまの
沈まんとて月を見れば
秋月のなりて雲をはらひ月をとるも

春月はまたあひよりて先を競ひ梅の
その香を慕ひして翠を加ふ
或は吹かれて風に鳥の尾をいなし
を庭授て風を魅〳〵むだ白〳〵花候とも
を落なりに蓮太郎とも爺小ひの
らしかの山中に枝乃頼朱よりなくして
真性雪　僧懐素小筆をとり
し　免張横楽ハ新葉と見て源家乃

かゝせ一ゝとゝ市ゝゝ二日をゝゝに
只し淀ゝ船ひて風雨ゝ風雨れ中ゝを
ゝゝゝるの〳〵

笑門辞

芭蕉翁

去年八月かゝ初ゝ面を合せゝゝゝ八月のゝゝ名
深切ゝ別をゝゝゝゝゝ別ゝのゝみて一日ゝ来ゝ
とゝゝゝゝ俳日ゝ来ゝ該とゝすゝゝ笑絵とゝ
風雅をゝゝ市ゝゝゝゝ語ゝゝゝゝゝゝ
絵ゝ行のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ風雅のゝゝゝゝゝゝゝ

風雅なる仙の為なるもの
いにしへ三つの事二つのみ
事一なりまことの若子は多能と和らい
まいに二みて用一なる事感ぜざる
事画いまりて師の風雅なる
て師の事なるとなれども師の画は
精神微小入り難陽妙と陽まこと遠遠
なる画 師の風雅

義炉の義のごとし これかさうひて
事なるに 只新の画の詞の後世
ひらきまれ ひらきまれ
あるれなる度多し 後鳥羽上皇の書せ
給ひしものと 此御小實有
志うかなひしとを
やうれを山と無成かうこと
一節をもとうもの 雅古人の

[illegible]人の[illegible]を
[illegible]と南山大師乃[illegible]の道[illegible]と
[illegible]風雅[illegible]又[illegible]小用[illegible]としひて
[illegible]とかゝ[illegible]宗門乃[illegible]
別[illegible]の[illegible]

[illegible]時[illegible]
[illegible]小[illegible]
[illegible]元禄[illegible]
乃東深川乃[illegible]
[illegible]と書[illegible]
遊て[illegible]
又[illegible]
[illegible]

墨小舟と申すかたに野分雲小海氏腦中
乃花いろいろ市薄の文をなげ来
久しく今世別れのをみくまし岸に小
立て箱根山をうつす白雲の
うつる水こそ猿橋乃茶雑さらさら
ゆるこそ石うるはしい青とめくるそえんつき
吹岸に小立んとしひて袖をつらぬ
路のもり墨を衣や花の雲

月見成

とし堤邑湖の月ん人とく皆く本者
寺に旅寝して賠而松れ人々と
僧光に乙別を酒をすりて泉川よ
之具石をぼる人西秀小茶沸色く
信樂の一献の美とそえて今宵を
茶といひ酒といひかくの人と二流小
酒を灯かる海とくこそ東よ玉川の

[illegible]と謂し丈竹を月よりうそ[illegible]
酒よ樂天の詩を[illegible]支[illegible]を[illegible]く
[illegible]月は[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]は[illegible]法師は[illegible]茶[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]人[illegible]墨[illegible]洋[illegible]の[illegible]と

[illegible]て[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]の法師[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]を
[illegible]

[illegible]友[illegible]の[illegible]
かくて[illegible]の[illegible]て[illegible]
[illegible]を[illegible]人[illegible]の[illegible]情

をとこそふ杖を飄竿の唐かとかれ
ちと廣小茶瓶の若男ひれを青葉の
松の葉しこにてひらかりさ海や
おもの演乃名山の鏡の山もなな
角にさし夏日投を横川の橋つく
句りさ沈長乃を風を鷹とかさ川
過しさ山を高の巻るく石山の
蟬を沈乃の風にさくてそ小橋の
霜も金ねさん夫橋乃帰帆を月
とさて句そ小鄙を海へ
名月や湖水小海ゝ七小町
されや家鴨の巣式を石山ゝ源氏の
供をゝ唐土の蓮唐土を面湖を戯女
のさ月ひさをさ小さ風雅の名ゝ
鈴りて人ゝ出さ月ゝ小海さんや
実は和漢の名縦句り市しさく

松の小松をさし置て茶店の欄干に
心をとめて日ならし蓮華寺を
過ぎてまた月八をして芙蓉の露にうる
月に竹の林の酒をはなして松が江の鱸を
今宵たるとや、むかしかの楓の名残
おもて辛崎の松をひとつやまゆる古き都の
名をもはじめて浪花川の明月の哉
ひとを千那尚白とおもふてや 曳杖して

東にてやみ文に互がえし
三井寺れ門をしつるやは子の月
識を粧致のむかしあり 松が今宵の
枝にそめゆくを 此席を韓愈が文章をも
はるむかし 賈島が詩稿ともなしてぬ
色なき詩人文雅の屏しゆくし 猶も
たまく前輩の前後といふも元禄
ばかり人をも何へかやと見ぬ事緒こしを

和の世をうつして今宵の風流を尋ぬ
月を小月にせ[illegible]
しらぬ

元

堅田　イサヨヒノ

既望賦

[illegible]

[illegible]月の待興に[illegible]中まで人々宵をこそ
いさゝ夜らをさゝ[illegible]堅田の浦小[illegible]

[illegible]

月[illegible]
[illegible]人の家乃後小清入[illegible]酔[illegible]
の月ふうう[illegible]
[illegible]聲[illegible]
如[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]朝の[illegible]
[illegible]

かのしいたけひの妻と侍る月を始
月とも名くさし出る湖上を名のる
照らすらん兼くこそ仲秋空の月八
月の海人雲よさし向ふと鏡山中
いかなるよし今宵秋こうしうを
うしうしかの雲上の探千ゆまを
こと水茎々尼石ふつう毛くそ
名ふ十二海の新をひらき出とそ
月と月も二位中ゆて馬雲のうちふ
隠まされて月の鏡山といふ事を
ふとれとそれを問るしれ無をそてゆり
雲のかくるこそと思ふとて名ん
いと切なり中うてこそ月の雲とえ名
月と水面小玉信の新とてこそ
ふこそ弁佛の雲をそふ弥やいさよひの
元と毎中ふ名中ふ月のあしき

のりかゝとハ京極黄門の歎息の侍なる
と我をたふとひしも此一雲に極めて二つに
あら心僧部の衣をうる用ゐて古老観音
の使なしすやといふへかりしハ興ニ不宜
て来きても宿とかとられ興にてさ瑞らん
やとめとの岸よて画をいかられて月ハ横川
にかゝみてを娘蕨城の鐘も吟の高也
中さりしと出くいさよふ月の名も
謝のく月さし入よ浮見堂

閉関説　　桃青翁

色ハ君子のにくむ所にて仏も五戒
のはじめにをけりといへども流石に捨かたき
情のあやにくにあはれなるかた〳〵も
多かるへし　人しれぬくらぶの山の梅
の下ぶしにおもひの外の匂ひにしみて
忍ぶの岡人目の関もる人なくハ
いかなるあやまちをか仕出てんあまの

されば彼のまぐりよ神に願をかけて
方を先とする者なりと多くは老の身の
行末をもとゝする事なれば
しかして四の悔とはいつまでもあれば
遠不国にて果はつゝ人生七十
と称なりとして此世盛なる事し
ろくに二十年なりとの意の
年をとる事一度の夢の如し之を第

六十年乃ち七十年なる時は
くほれて青春の小別紀なる時は
春光の小別行事ともなるべ
なるものなる事多し然れば増長
して一芸をなす者は是非の勝
なり是をもて世のいとなむ所にて貪
欲の魔界小心を起し遺恨(コウケツ)なる事
生ずる事なり之に南華老仙の唯利

宮を破却し　老翁をよびまして問ひ給へらん
こそ空のものしらぬといふなる人あまさし
西園の弁なりし　出て八代の家業とふまゝ
くらましらし　黄敷なるを閉て杜工部を
隠さんかそ友なるべしと友とし　食ひきと営り
もして　茅舎の想ひ文見書なる棕櫚をとゞ
耕の月や　貧を談ぜ勧めん　門の徳

棕櫚之説　芭蕉翁

昨日のくれまゝ物のちらしとゆかしなれ
あきこと折く書なきし　なふ師走の十三日
棕櫚のとふかゝゆり赤本や雲井の傍を
几案の所たる絶えたる顛倒ある事わしらく
只なきしくの棕櫚さく新らしきそ面白
ある道とのしく門さし出して奥の一ト間を
屏風小なきひなし　火鉢小茶盃様

[illegible]て姫の帷子乃上に風[illegible]
[illegible]る是[illegible]しいとゝもしく[illegible]の日[illegible]の
[illegible]く[illegible]の湯洞[illegible]
[illegible]る中小将佛のうゝ[illegible]
[illegible]る[illegible]目[illegible]
[illegible]の[illegible]
行を拾ひ[illegible]
太男[illegible]

[illegible]小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

幼住庵記　　[illegible]

[illegible]山の奥岩戸の滝小[illegible]山と云
その[illegible]山行寺の名[illegible]仏像[illegible]
細き流を流して翠微小[illegible]事三四
二百歩ばかりして八幡宮[illegible]神殿[illegible]
[illegible]の[illegible]一の[illegible]
[illegible]と[illegible]光を[illegible]市刺[illegible]の[illegible]を
[illegible]しのぶと又[illegible]人の[illegible]り

[illegible]れていとて神[illegible]物[illegible]倩[illegible]
拾し苔の戸[illegible]苔根垂[illegible]とかいと
[illegible]根[illegible]猫[illegible]とを[illegible]
幼住庵と云[illegible]比[illegible]庵[illegible]
[illegible]水[illegible]の伯父小[illegible]住[illegible]と[illegible]八八
[illegible]幼住[illegible]人の名[illegible]
[illegible]市又市中[illegible]と[illegible]事十年[illegible]
[illegible]て四年[illegible]迷[illegible]

[illegible]を先に蟠牛の家を発して奥州
象潟の景を尋ねに日和山を登りて海を
望むに海の荒波小さき山々を打て今年湖水の波不毎に
の源泉流きたりて海に入る芦の一ツとて
此辺毎年の如く刈積ふるきあり
偖も象潟の和月のそめいとうり
[illegible]不入山の面にて如此[illegible]

[illegible]流石云ふ所[illegible]跡
[illegible]山形[illegible]時雨[illegible]
[illegible]所[illegible]
[illegible]
て魂[illegible]東南ふそ[illegible]津湘
洞庭赤山[illegible]赤中ふそ[illegible]人家
[illegible]南蛮[illegible]
小風海と[illegible]涼し日枝の山[illegible]良の

箱根より宇津の松に居は見えて妹あり
橋あり釣舟し母何り笠みれに無ゆふ
函嶺の頂ゆ林藤の小田原に苗見え唄気色
らふ多留の宮に水鶴の姿ゝく書て有し
京物もしろく あしそといふ車ゆ舟に
こよ山に士峯の例に色ひて武蔵野て古き
栖もるひからき田よ山ゝ古人をゝそふさく
伊豆の嶽人の才の峯 猿嶋とよ出り霧の

黒をいとくろく淀りて網代にかそふ浪
やん 萬葉に集の姿あり けり 松眺めて
白雲たかりんと浅の峯に追出しつ松の梢
伴り葉も寄をとなく猿の膠をとゝ名
伊豆の波海棠に草をいふあひ息情無に
麻を投つる 五十鈴際従ゞ流やれあり渓嵯峨
碎し民とあり 人家に早てを投出し
有山に風をあく庭も遍く心をあらはれ

[illegible]の農作日[illegible]所小山の清水かけ迄て
[illegible]所[illegible]小月を[illegible]て小新を[illegible]
所てて[illegible]間所小[illegible]此と[illegible]
[illegible]所小[illegible]所寂と[illegible]山野小道を
かくうんとかたて中[illegible]多人小[illegible]て
世をいとひて小仏
[illegible]の
[illegible]物[illegible]分乃神を[illegible]
[illegible]無今[illegible]地を[illegible]佛[illegible]

祖室乃庵小入[illegible]
風雲小分を世[illegible]花鳥小情を[illegible]
[illegible]生涯の[illegible]
[illegible]
楽天小[illegible]の神を破り[illegible]
[illegible]貫思文[illegible]
[illegible]の初の栖[illegible]
[illegible]

先年のし
椿の本しめり　麦布之

十八樓記

大垣　[illegible]

美濃之西ゟ二川よりのそゝく　水橋あり
あるゝと唱侯氏と云橋を懸るく
祝山氏東小をうくちかゝ[illegible]す
田中の[illegible]板の一枚
[illegible]
そゝ[illegible]氏家[illegible]行のかゝ[illegible]
曝布　不[illegible]ふしをえて　石[illegible]

行ひ云々漢村刺と申候て候と
ひら野を出て[illegible]の高く見山樓と
かて[illegible]小仏峠を[illegible]方小菅の日[illegible]
十八日より新し[illegible]小かとて波[illegible]
箱史の新し中[illegible]くる様の[illegible]稿
出[illegible]と彼小田高き尺[illegible]
かの潮湖の八つの[illegible]湖の十[illegible]
淡し涼風一味のうち小[illegible]

此樓小名をいとんと[illegible]十八
樓としいと高のうち[illegible]

ひかりさす月[illegible]

皆原

紙衾ノ記

芭蕉翁

古き枕古き衾は貴妃かかたみより
伝へて恋といひ哀傷とし錦床の
夜の志き○乃上ふかき芙蓉をぬひ物にて
婦る川の津まに浪の世をかこつ河波を
そよの扇に通して白きひはかりゆかしける
らんとや恋の一物とせんもおかしけし

いてや此紙乃衾は恋にもあらす無
常にもあらす蜑の苫屋の雲といひ
旅のねふりのいふせきをかりひと出羽の
最上といふ所にて有る人にはたりて得
させ侍りけり越路の浦々山館野亭
の枕の上は二千里の外の月をさやとし
蓬すゝられたき○の下ふる霜を
さむしろのきりしきをゆめて命たるゝて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嵯峨日記

芭蕉翁

元禄四辛未卯月十八日洛陽を出て嵯峨に移る

落柿舎会に記る処也此庵に暫て皆ケ月

及て京に通る市人尚惜しむ心をもへらす

侍るなり其ゆへ蕭条の草の戸

庵中の

什器一品も捨ずして置ものを

[illegible]

机一硯文庫白氏集

寄朝夏人一首世俗相かゝり

源氏物語土佐日記枕冊集を亟度の

苔屋書ゝ之ゝ之の筆不可の筆の筆を

盛石酒一壺を以て取の食物

菜の物を京より指出せ給へ

承知と云まゝ信不申出

十九日午時源川寺小清

大井川水流く嵐山原ゝ松の尾

乃峯小清ゝ之ゝ鹿声義ゝ清ゝ徐ゝ

多し松の尾林の中小小智屋安と云ゝ

物ゝ上下の清滅小之所有

ゝれたゝ小ゝ波仲ゝ物ゝ

所ゝ物の橋と云ゝ小清ゝ

橋ゝ小ゝ墓ゝ之間屋の隣殺

八月十有ゝ之ゝ橋を捻ゝ

鶴備後屏の上京紀行
の廣文を初きり出る君村の柳巡女廟の
花乃むしもおりひやゝる
うきゝ時やゝ竹のとかる人の景
嵐山藪の蔭やゝ風の筋
斜日及く蔦橋合小淵る九郎京うち
見る玉水京小淵る青うち外
竹自小淵城乃京紀見る玉水

遊中の吟
つゝ乃ふ子の長や麦畑
蔦橋合古寺の自の紅葉る淵みゝて
彫く憩渡す中と小紅みかゝ走る
寺の屋うゝ今の行れ有る屋そ
むゝ寺ま彫せし梁画る壁風小碑
京小の れく奇石怪形と蓮の下小かく
走ゝ竹椽の前小柚の茶一年花芳

市まて

柳ノ花もしら雪神楽の

子観大竹藪をとる月哉

尾雅信

ほうやいん廣島よりのうつり源藤の

玄果堂の宮より菓子の物なと送り

て今月廿五日迄とゝめん〳〵繁一休

小人ハ出て申外なれ共来ル〳〵

て来ル廿五日ハ元来の菓子の

廣島ハ〳〵ハ暁ハ出て〳〵宮の菓子

ゝの実元地の宮毛ハ外ニ三四人の

数屋小屋の人ハ〳〵ハ〳〵ハ

して来ル〳〵ハ〳〵書状ハ〳〵

なと云ハ〳〵笑ハ〳〵

京小帰る玄果堂ハ〳〵

廿一日

時候いまだうりなきを
八郎兵衛と時果小僧を彩まうらう墨
面打しく　高信寺にて彩日眠師をよ
乃て之集京小僧を人をかく
居外られて　雨を霧しきぬまふ初尾
小て書状を五枚を彩日　て感不清書
廿二日
彩の方面を人をけく佛さまふ

もう書して状を其言
喪を指る者を悪をいるしまし
酒とのむ者を示をわるしまし
状小位をるものを然をいるしまし
法花を位をるものを法花をあるしまし
佛さかくをうしまし而を人
のうを作る佛さをあるしまし
又あ所

山里小こたまに雖とうつる雪
独すまんと桜ひとの絵
独ぬれ行面白さ長雨遠さの
日暮小雨日の暮てとまる雨の
間と共に玉水蛍に蛍光小雨
市支
うき世を捨て世を諫鼓
そなた宵寺小独居云句
菅方云集て清長を乙前武門人の清長
門人の清長
庵くこ中曲水状ゆ市すを拾
芭蕉の四季の京波を
むつ浦小船法すを通州
又云
永すを所ら枝二ちとうかを楓一本
もの色とんすを色と書て

いつの楓葉なるらん　一下雲

晨雪の文字

竹巷の廣小路　藤井

出雲や初しぐれ小路

下三句

白と黒と縄より明る麦の月

芝の扉や木綿小路の春

竹の戸や初しぐれの結ぶ夷

麦の穂や流れ小そばの明る雲雀

一日〳〵麦ふみ〳〵時鳥

能勢の神楽を永とらせし

上旨

題蔵橋合　九北

見渡す畑も水引屋も花所

苔小及て云来京より来る

脇所昌房より清書

大津尚白より消息あり
元旦号墨田を移す
訪千里伯
元旦京小沛より
年の内
乎那大津小沛
史邦丈等訪
題秀句横会　丈草

對深川峰伴湾
人居枝沢今夕東風
沢梅雪の書

尋小督墳

弦月怨情出深川一夜
首李僧清水琴韵行雲孤墳作
樹中

芋坊より二条小沛の笑　丈艸

途中吟

杖を停め枝を折りて　史邦

黄山谷を感ずる句

柴門不見自作を已　對客揮毫割栗

が酒

乙訓郡に武江の名句　蕉翁を

うい一巻こゝにあり

芭蕉の書簡を懐ひて

白井浄を馬をそゝ　きく　真角

腰の蕎麦　相模　すゝ田丹

野から流人小波山小菱一ツ　仝

宇津の山女小魚を焼て庵

伊せ　桑名　桔を　桑

中の町　雷雨　延　亀源　亀竟　穴を

ゝ　川　亀源　大ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

栗原のこゝ

廿六日

芽出しそうこ蕗の実　文竹

宮の廣小路　芭蕉

蜻蛉　杜鵑花　角振て　玄果

人のこしらう　桃花流水　文竹

有明小二度　蕗の薹　乙刀

廿七日

人丸集作日記

廿八日

蓮小杜出る事と云出して仏法と云

如氣者更る時と夏と為す　法華

史と世の陽義　水と夏月る龍馬

蛙と合時　蕨と時　節と成

蕗の薹　蛇と居ると云　睡花

泥なて梶子出　荘周蝶夏落　蛙

妙と博くる事　夏と雪　合者　妙夏小

行く沢路の高想敢れの高雲西流を見
又高く御小供高を見るにて所謂念
義行り新小高ふ〳〵行陽の星迄高く
来て東を高と思し〳〵紀州師の
労と為て来る〳〵百日の程新の玉〳〵
行時と新きす行く日を或は
昔九裏小深〳〵高き車なれ
見てもう〳〵被を高る

廿九日

又高奥拂高館乃詩を見る
高館鷹ノ天星似貫 衣川通海月堂
高地風京卿八天府 女人不金高地時依
月所高京

晦日

朝日

江戸年田昌寺事由決問

尚白子那須出

竹乃子や喰ふ[illegible]後の雪
[illegible]の[illegible]

還波

[illegible]

二日

芳良来る芳野へ[illegible]を行熊野へ行

武江四文人の通過[illegible]

熊野路やらつゝ入て麦乃海

大海や芳野へ奥を花の果　芳良

夕陽小[illegible]つゝ大井川[illegible]を渡る嵐山

小[illegible]て[illegible]と山[illegible]

乃ゝ帰る

三日

此夜の白波つゝ雪　[illegible]日[illegible]止

尚さ武江の事くに同行既に西
国
宵小雨そそぐ中を出船小行舟客
白露四里
四日を房柳会を出んと名残り
そそぐに奥の一間くを見てそく
合月雨や 色紙色さる
望月孫

伊賀新大佛ゟ記

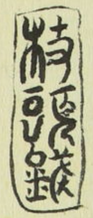
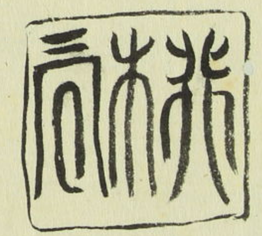
芭蕉翁

伊賀の国阿波の庄小新大佛とゝ
ゝ所ゝ所の郡ゝ大ゝ聖後京上人
の御造ゝ四里小年をゝえて四
京七京無元ゝ造ゝ
かの御ゝ仁王門接傷の後ゝ拾れる
第代ゝ造て杉のゝ年ゝ

石屋禅師ハ道はなれ[illegible]と云ケん
かゝる事ハ[illegible]不似[illegible]ん[illegible]
道[illegible]屋柳[illegible]の[illegible]
[illegible]御[illegible]ハ[illegible]
[illegible]屋[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

安堂[illegible]人の力をつゝ
屋[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]石屋小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

石の上

翁朱印三

白字